

学校法人中村学園創立50周年 専門学校開校35年
令和4年度「職業実践専門課程」の集大成

専門学校静岡電子情報カレッジ
静岡福祉医療専門学校
校長 中村 徹

令和4年度 学生生活集大成

我道祭 文化祭令和5年2月24日(金)、学園祭26日(日)
学校法人中村学園創立50周年記念式典25日(土)

卒業研究・ゼミ成果発表会、ケアスタディ発表会、
フィールドスタディ・CANスカラップ活動報告会

専門学校静岡電子情報カレッジ

卒業研究・ゼミ成果学科内発表会 卒年全学科 2月14日(火)・16日(木)
卒業研究・ゼミナール成果発表会 卒年全学科 2月24日(金)

静岡福祉医療専門学校

卒業研究・ゼミ成果学科内発表会 3年子ども心理学科2月9日(木)
ケアスタディ学科内発表会 2年総合・介護福祉学科 2月21日(火)
卒業研究・ケアスタディ発表会 卒年全学科 2月24日(金)
フィールドスタディ研修発表会・CANスカラップ活動報告会 2月24日(金)
保育園キッズハウスひかり令和4年度生活発表会「ひかりの日」3月31日(金)

まだまだ新型コロナウイルス感染環境を考慮しながらの開催ではあったが、成功裏に開催された。2VS小川達也学生会会長をはじめ学生会役員及び実行委員の学生、我道祭ご苦労様でした。そしてスポーツ大会等の令和4年度学生会活動ありがとう。君たちのおかげで、コロナ禍でも思った以上の学校生活が営まれた。

【卒業研究、ケアスタディ発表会 - コンセプト】

社会にアプローチできる研究テーマへチャレンジし、そのプロセス、プレゼンテーションを通じて自己のスキルアップを図る。

1. 「時代に即した、将来に向けてアプローチできる研究テーマ」であること
2. 関連知識の幅を広げ、汎用性・応用性を身につけ、「付加価値」創造に繋がる発表であること
3. 「プレゼンテーション」、「コミュニケーション」、「ドキュメント」等の技法をマスターし、アピールする手法を身につけること
4. 「企画書」、「スケジュール進捗状況管理表」等を作成し、与えられた時間内で完成する計画的な研究を目指すこと
5. 意地でも「100%の完成度」を追求する 完成することではじめて

- 達成感、充実感を味わう経験が「モノづくりの醍醐味」につながる
6. 「実証実験」に基づく研究発表とすること
 7. 発表の際には、資料を読むのではなく、「自分のプレゼン」をすること
 8. プレゼンの中に、「試行錯誤した点」や「それを将来、どういう形で役立っていくか」をマトメの中に含み、可能なら「継続研究」につなげること

残してくれたみんなの集大成は、本学の貴重な財産である！！

プレゼンを通しての高評価は、学生だけに留まらず、我々教職員にも大きな「自信」となり、これからの学生指導への大きな「励み」となった。この成果は次年度に継承され、今年度以上の大きな成果を期待するところだ。

特に、電子の「産学連携プログラム」や「コラボによる付加価値創造につながるレベルの研究」、福祉においては「地域に開かれた専門学校」に基づく「ボランティア：地域活動」等の後輩への継承を強く期待する。

令和4年度 卒業研究・ゼミナール成果発表会
臨地実習報告・ケアスタディ発表会を終えて

【電子情報 企業対象卒業研究発表会】

○御参加講師（順不同）

- ・オフィスアシタノ代表（本学非常勤講師）：木野 正弥先生
- ・株式会社アス代表取締役（本学 学校関係者評価委員）：常葉 英一郎先生

○発表テーマと学生メンバー

<1>「オリジナルコントローラを利用したゲームシステムの設計・開発」

ITゲーム&ロボットシステム学科2年

長田 学斗、小林 泰登、後藤 和真、牧野 蓮太、早馬 芽来、
八木 琳太郎

<2>「体験！メタバース VR ゲームの開発」

ITゲーム&ロボットシステム学科2年

工藤 東馬、三浦 礼唯、若林 涼

<3>「ドキュメンタリー映像制作」

音響&映像メディアクリエイイト学科2年

吉川 瑠馬

<4>「静岡県警PR 動画制作」

音響&映像メディアクリエイイト学科2年

飯塚 天音、和泉 青花、岡崎 李佳、小川 達也



<3>の写真

○講師の方々からのご講評より

<1>

- ・単純なスイッチではなく、圧力センサーを使っており、技術レベルが高い。
- ・3Dプリンタの出力を強度向上させた工夫は大変良い。試行錯誤の結果だ。
- ・研究がとても良い経験になった。スキルの蓄積を今後も続けてほしい。

<2>

- ・画面キャプチャーした動画による説明が分かりやすかった。
- ・広く公開して多くのユーザーに触ってもらい、そこから評価を得たかった。
- ・技術的に大変なところへ踏み込んだが、完成度が高い、成果が出せたことを高く評価する。

<3>

- ・年齢差のある方へのインタビュー動画を見ると、学生当人の高いコミュニケーション力がわかる。
- ・仲間・人脈、繋がり、絆を感じた。恵まれていることに感謝してほしい。
- ・映像の効果は絶大。大変良い作品だ。
- ・映像全体の構成がすばらしい。全体の流れ、配分、BGMの入り方など、よく考えられている。
- ・映像づくりによって、話を後世に伝えることができる。史料としても価値が高い。

<4>

- ・テーマ曲がよくできている。音質を高めるなど、更に改善を図ってほしい。
- ・社会貢献につながる成果として、高く評価する。メンバーそれぞれの自信になっただろう。
- ・全体的に情報量過多に感じられたので、内容を整理すると更に良くなる。

<総評>

- ・全体として 各グループが長い時間をかけてつくってきた集大成を見せて頂けた。
- ・様々な前提で計画し、実際に作ってみてうまくいかないケースは現場でも多々ある。どう直して良くするか、試行錯誤の繰り返しの中で、「うまくいかない」は決して失敗ではないこと。改良への礎、成功の素になるもの。
- ・研究の結果、どうしたらよくなったか、次につながるか、を常に考えてほしい。
- ・完成の途中にはいろいろな意見があること。グループ内でぶつかり合うことも大事。それが作品になっていくこと。2年間の学びをそれぞれの道で活かし、活躍することを心から願っている。

【福祉医療 臨地実習報告・卒業研究・ケアスタディ発表会 CAN スカラシップ活動報告】

○発表会御参加講師（順不同）

- ・非常勤講師、学校関係者評価委員（本学卒業生）
社会福祉法人 駿河会 特別養護老人ホーム 晃の園
相談員兼ケアマネージャー：川崎 誠之先生
- ・一期一会トータルケア 専務取締役（本学卒業生）：大久保 武明様
- ・本学総合福祉学科 講師：塚本 鶴樹先生

○発表テーマと学生メンバー

（1）子ども心理学科3年 卒業研究発表

「子どもの発達に合わせた支援について」
～放課後等デイサービスでの実践を通して～
築地 大祐、藪崎 叶実

（2）介護福祉学科2年 ケアスタディ発表

「不安や混乱を軽減し安心して生活するために」
～C様にとって暮らしやすい環境とは～
梶井 春菜

（3）総合福祉学科2年 ケアスタディ発表

「真摯に向き合うとは」～孤独と不安の中で～
大畑 悠斗

（4）総合福祉学科3年 卒業研究発表①

「支えあいで見える世界にイロドリを」
～盲導犬ユーザーが暮らしやすい環境をつくるためには～
浅井 優菜、眞砂 優希、松本 美紀

（5）総合福祉学科3年 卒業研究発表②

「支えあいで見える世界にイロドリを」
～視覚障害者の歩行における不便さ～
飯山 温人、古藤 由女、西村 ゆう、平山 叶実

（6）総合福祉学科3年 卒業研究発表③

「レインボーな世界を目指して」～性別を超えた社会のつながり～
大木 萌夢、賀藤 真冬、鈴木 萌、八木 彩花

（7）総合福祉学科3年 卒業研究発表④

「パートナシップ制度の現状と当事者が求めるコト」
石川 璃央奈、石山 萌々香、森田 花奈



(4) の写真



（8）CAN スカラシップ 令和4年度活動報告

子ども心理学科：築地 大祐、勝又 小乃葉、杉本 侑紀奈
視能訓練士学科：稲葉 実桜、遠藤 結希未
総合福祉学科：石川 璃央菜、西村 ゆう、佐野 太一、佐藤 朋花

○講師の方々からのご講評より

本日のすべての報告に共通するテーマとして「何故、研究をするのか？」ということがあると思う。現場の職員として働くためにどうして研究が必要かを皆さんは考えたことがあるだろうか？それは目に見える課題だけでは支援ができないからである。社会は私たちの目前にない課題に溢れており、それらはこれほど知られていないといつも痛感する。

私は20年間高齢者支援の仕事をしているが、子ども支援の活動も継続している。その経験を通して、これらはすべて繋がっていると確信した。皆さんも疑問に思ったことは調べ、分かった成果を周囲の人々と共有して欲しい。それが社会全体への貢献にも繋がり、活動の輪が広がる。このような経験は必ず就職してからも活きると思う。仕事としての研究や研修もあるだろう。一方、自分自身の活動としての研究や研修も並行して行って欲しい。

自分の生活課題を自覚していない方々は社会には極めて多い。特に子どもがそうである。すべての課題が自分のせいだと思い込んでいるのである。LGBTQの方々への差別も根強い。少数の意見が多数の意見に押さえつけられているのである。常に幅広い視点を持って福祉を考え、社会を変えていくて欲しい。

卒業研究で身につけられた“自信”

IT ゲーム&ロボットシステム学科2年 工藤 東馬
私たちグループは、卒業研究でVR ゴーグルを使ったゲームアプリケーションの設計・開発に挑戦しました。学内にVR 関連の開発事例がなく、PCにVR ゴーグルを認識させる第一歩から躓きました。メンバー全員で協力、試行錯誤を繰り返し、最終的に完全に動作するシステムを完成させることができました。その成果をプロの方々の前でプレゼンテーションする機会も頂き、大きな自信を得ることができました。

この研究で、コミュニケーション、進捗工程管理の重要性が理解できたことに加え、最後まで諦めずにチャレンジする精神力を伸ばすことができたと思います。

4月からは皆プロフェッショナルとして、それぞれ業界で働き始めます。その礎がしっかり築けたこと、校長先生をはじめ、ご指導下さった先生方に深く感謝しています。

卒業研究発表会を終えて

音響&映像メディアクリエイイト学科2年 飯塚 天音
学園祭での発表会では1年次の後期よりゼミナールにて取り組んできた「静岡県警察 PR 動画制作」について発表をさせていただきました。最初はメール配信サービス PR のために動画の作成を行っていましたが、2年次の後期にアプリに移行する話を頂き、そのための動画制作も合わせて行ってきました。最終的には静岡県警察より感謝状をいただくことができたことに加え、新聞やテレビでも取り上げて頂けるほどの成果を収めることができました。発表当日は内定先の方もいらっしやる中での発表で緊張しましたが、今までの取り組みについてしっかりと発表ができたと感じています。就職後にもこの経験を活かして最終的な目標に対して一歩ずつ進めていき、大きな成果を出せるよう努力していきたいと考えています。



卒業研究発表会を終えて

子ども心理学科3年 野口 愛純
私は、ずっと興味があったリトミックについて、グループで調べ、研究しました。音楽が子どものどのような成長につながるのか知るため、園や教室へ実際に足を運びました。なかなか見学させていただける場所が見つからず、発表が間に合うのか初めは不安でした。しかし、実際に乳児・幼児それぞれのリトミック活動を見ることができ、年齢ごとの楽しみ方や配慮、発達の違いを学ぶことができました。最後に、見学してきたことを生かして自分たちで考えたリトミック活動を行うのはとても難しかったですが、「キッズハウスひかり」の子どもたちが、楽しく元気に動いたり歌ったりして楽しんでくれたのが嬉しかったです。卒業研究発表会では、聞いてくれた人にリトミックの大切さを伝えることができました。そして私自身、研究を通してさらに興味を持ちました。これからも学びを深め、就職先でも機会があったら取り組みたいです。